

切ない、そしてどこかしい「子どもの日」です。コロナ禍で思ったように遊んだり、学んだりできない状況が続きます。こんな時期だけれど、こんな時期だからこそ、未来を担う世代への願いと、支えるべき社会の責任について考えたいと思います。

休校が決まった二月末、自由学園最髙学部(大学部)の渡辺憲司学部長は「『今本当のやさしさ』が問われている。『コロナ対策に向けて』と題したブログを書きました。そこでは、感染症関係の学会で出会った研究者の言葉が引用されています。」

感染症で恐ろしいのは「感染症は勿論蔓延が恐ろしい。しかしもっと恐ろしいのは病いに対する人々の差別と偏見です」

ハンセン病に対する隔離政策、エイズや水俣病の人たちへの差別…。新型コロナウイルスで、感染

2020・5・5

# 社説

症の誤った歴史が繰り返される危険があります。医療従事者や家族が、周囲の心ない言葉や対応に傷つき苦しんでいるという現実がすでにありま。感染した人や家族の家に投石や落書きするなどの陰湿な嫌がらせも明らかになってい。悲しいことです。

「正義と柔軟な感性を持つ若こそ社会と家庭を思いやりとやさしさに包まれた場所から引張って行けるのです。そう若い世代への期待を記した渡辺さんに「やさしさ」の意味するところを尋ねてみました。

「『やさしさ』は『瘦せし』。自分の身を瘦せさせることであり、辛いことでもあるんです」

新型コロナウイルスは誰でも感染する可能性があります。不安や恐怖のみ込まれそうになりま。自分も痛みを感じている中で、相手の憂いをくみ取ることが

## 「やさしさ」が育てる未来

### 「子どもの日に考える」

できるかどうか。やさしくするって、実は大変なことなのかもしれませ。大林宣彦監督の言葉

福島の人々取材していると、二〇一一年の東京電力福島第一原発事故の後に起きたこと、今の状況を重ねて心配する声を聞くことがあります。福島ナンバーの車から与えられている。(福島の高

生に向けて、励ましの言葉を贈っています。高校生を対象にした映像フェスティバル。相馬高校放送局の作品「ちゃんと伝える」を、大林さんが特別賞に選り、その表彰式の席上でのこと。す。

「痛みを感じる体験をした人の方が、うんと人を思いやりたり、やさしくなったりする能力を神様から与えられている。(福島の高

でこんなことも言っています。「悲しいこと、辛いことは忘れることで生きていられるってこともある。自分たちはそれでいいけれど、未来の子どもたちが歴史を知らないと同じ過ちを犯すから、やっぱり伝えておこう」

社会が差別や偏見に満ちた暗い方向へと転がってしまっているのか、それともつながらりを深めて問題解決にあたる方向へと歩みだせるのか。私たちは今そのことが問われています。周囲の苦しみをくみ取りながら考えたこと、感じたことは、コロナ後の社会の針路を定めていく原動力になっていくでしょう。そして若い世代には、それをさらに次世代に伝えていく時間もたっぷりあります。

さて、この原稿を書くにあたり、自由学園の渡辺学部長からは、一つ注文を受けています。この日はむしろ、子どもを包み

込む社会がどうあるべきかを書くべきだと。政治家から子どもや若者を思いやる肉声が聞こえてこないことに、教育者として怒っていました。

大人がまず身を削って休校が続ぎ、経済的に困っている家庭の子どもたちの栄養状態が心配されています。閉鎖的な環境で、虐待やDVの問題もいっそう深刻になってい。大学生たちはアルバイトがなくなり、退学を考るなど深刻な経済状況が明らかになってきてい。

子どもや大学生の困難はコロナ禍で生じたわけではなく、もともとあった問題があらわになったという側面があります。社会はそこからまず反省をしなければなりません。そのうえで十分な手だてを講じていかなければ、将来を担う世代のために、身を削って「瘦せし」にならなくてはいけない責任はまず大人たちが負うべきです。